

# 国連防災世界会議

加藤 碩一<sup>1)</sup>・広山 禎子<sup>1)</sup>

## 1. 会議の概要

1994年5月23～27日にかけて国連防災世界会議が横浜市で開催された。完成したばかりの国立会議場での開会式には皇太子殿下ご夫妻が出席された。この会議は1989年12月に採択された国連総会決議による「国際防災10年」(IDNDR)のために招集されたものでその結果は1994年の国連経済社会理事会上における中間レビューに活用されるものである。「国際防災10年」は国際協力によってとくに開発途上国における災害による被害の軽減をめざすものである。会議の主な目的は次のとおりである。

- (1) 国内、地域、国際の各レベルでの「国際防災10年」の活動実践に関する中間レビュー
- (2) 将来に向けた行動計画の立案
- (3) 「国際防災10年」の活動計画・施策の実施に関する情報交換
- (4) 災害軽減政策に関する意識の高揚

会議は全体会議、主要委員会、技術委員会から構成されている。

全体会議は国別報告書を含めた災害軽減や施策・活動に関する各国代表によるステートメントの場で、討議・活動レビュー・活動の将来指針に対する評価が行われた。

主要委員会は大きく2つの議題を検討した。1つは世界保健機関(WHO)によって運営される公的部門と民間部門の交流で、とくに金融機関や企業等の関わりを検討した。もう1つは、地域別のグループ報告で、汎米保健機構(PAHO)とWHOによって運営された。

技術委員会はA. 災害に弱い地域社会, B. 災害に強い建築, C. 現代社会に及ぼす災害の影響, D. 技術災害と自然災害との相互関係, E. 持続可能な開発のための防災の経済的側面, F. 警報システム, G. 干ばつへの対応の7つのセッションで行われ

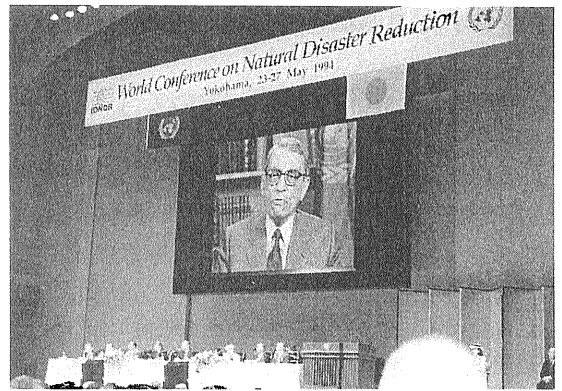


写真 ビデオ参加によるガリ国連事務総長の開会式挨拶

た。

このほか科学技術ポスターセッションが、(1) IDNDR 国際デモンストレーションプロジェクト、(2)早期警報を含む情報システムと技術、(3)教育、(4)保健、(5)社会科学の側面、(6)地球科学、工学、建築、(7)立法、規制、土地利用に分かれて日替わりで開催された。また、各国国内委員会、国連関係機関、学術団体防災分野のNGOなどによる展示も行われた。さらに「災害弱者って誰?どこにいるの?」というテーマで児童画展も開催された。

連日大変多くの資料が提供され、情報交換は活発で関係者の意気込みがうかがえたが、会議そのものの運営は準備段階を含めて上出来とは程遠く参加者の不満が大きかった。

## 2. 地質調査所の参加

地質調査所は、所長をはじめとして日本政府代表団の一員として登録参加したもののほか個人的な参加もあり、合計10名ほど直接会議に出席した。

科学技術ポスターセッション(1)及び展示で、地質調査所が提唱している国際研究協力計画である「東アジア自然災害図編纂プロジェクト」が紹介され、関心を集めた。

また、この機会に同計画地質調査所ワーキンググループの協力により会議に参加した関係者を集めて、東アジア自然災害図連絡会議が25日夕方に開催された。同プロジェクトの進捗状況の報告や情報交換が行われた。さらにその後所長主催のレセプションが開催され、関係者と一層の懇親を図った。

1) 地質調査所 国際協力室